

# 田舎館村の概況

## 合併協議の状況等

### 1 旧法下における合併協議の状況

津軽南地域（弘前市、黒石市、岩木町、相馬村、西目屋村、藤崎町、大鰐町、尾上町、浪岡町、平賀町、常盤村、田舎館村、碓ヶ関村、板柳町）14市町村による「津軽南地域合併研究会」を設置（平成14年4月15日）し、行財政現況調査と財政シュミレーションを実施し、報告書を取りまとめる（平成14年7月29日）。

「津軽南地域市町村合併協議会」（平成14年10月31日設置）を5回開催し、新市将来構想を策定。市町村長会議において、浪岡町と板柳町を除く12市町村で法定の合併協議会を設置することに合意（平成15年9月29日）。

法定の合併協議会を設置（平成15年11月7日）。

第8回合併協議会で協議会の解散を決定（平成16年7月9日）、平成16年7月31日付け廃止。

### 2 市町村合併の推進に関する構想策定に係る調査結果（H17.11～12実施）

項目	回答内容
主要事業	現在重点的に取り組んでいる主要事業(いずれも継続事業分) 村道の新設改良事業1件 県営事業2件 イ) 農道整備事業(黒石市、田舎館村を結ぶ旧国鉄黒石線跡地～21年度) ロ) 田園空間整備事業(尾上町と田舎館村の事業～20年度) 今後の主要事業(平成23年度以降の想定) 農道整備事業(狭小の農道を整備し、大型機械化の対応と農地集積の拡大を図る。) 消融雪溝の整備促進
行政課題	課題 年々減少する人口についての対応 大幅な減反等による農業所得への対応 対応策 地理的に近郊な弘前市、黒石市への勤務者の定住を促進するため、今後も村営住宅の整備促進及び国道102号線沿線の都市計画区域の見直しを図る。 米、りんご以外の農業所得向上を図るため、他作物への転換支援と施設整備への助成等を今後とも国・県補助金の動向を見ながら継続していかなければならない。
合併の必要性	必要性～今後必要 時期～速やかに 対象範囲～生活圏のつながりの深い近隣同士

## 田舎館村及び近隣市町村（弘前市・黒石市・平川市・藤崎町）の概況

### 1 地域の沿革

#### 【田舎館村】

明治22年市制町村制施行当時の名称	明治	大正	昭和元年～昭和28.9.30	昭和28.10.1（町村合併促進法施行時）の名称	昭和28.10.2～平18.3.31	現在の名称
田舎館村				田舎館村	田舎館村 (30.4.1)	田舎館村
光田寺村				光田寺村		

#### 【弘前市】

明治22年市制町村制施行当時の名称	明治	大正	昭和元年～昭和28.9.30	昭和28.10.1（町村合併促進法施行時）の名称	昭和28.10.2～平18.3.31	現在の名称
弘前市				弘前市	弘前市 (H18.2.27)	弘前市
清水村				清水村		
和徳村				和徳村		
豊田村				豊田村		
堀越村				堀越村		
千年村				千年村		
藤代村				藤代村		
新和村				新和村		
船沢村				船沢村		
高杉村				高杉村		
裾野村				裾野村		
東目屋村				東目屋村		
石川村		石川町 (12.4.1)		石川町		
岩木村				岩木村		
大浦村				大浦村		
駒越村				駒越村		
相馬村				相馬村		

**[ 黒石市 ]**

明治22年市制町村制施行当時の名称	明治	大正	昭和元年～昭和28.9.30	昭28.10.1（町村合併促進法施行時）の名称	昭28.10.2～平18.3.31	現在の名称
黒石町				黒石町		黒石市
中郷村			中郷村			
六郷村			六郷村			
山形村			山形村			
浅瀬石村			浅瀬石村			

**[ 平川市 ]**

明治22年市制町村制施行当時の名称	明治	大正	昭和元年～昭和28.9.30	昭28.10.1（町村合併促進法施行時）の名称	昭28.10.2～平18.3.31	現在の名称
尾上村			尾上町 (12.4.1)	尾上町		平川市
金田村				猿賀村		
猿賀村			大光寺町 (18.4.1)	大光寺町		
大光寺村			柏木町 (4.7.1)	柏木町		
柏木町村				尾崎村		
尾崎村				町居村		
竹館村				竹館村		
碓ヶ関村				碓ヶ関村		

**[ 藤崎町 ]**

明治22年市制町村制施行当時の名称	明治	大正	昭和元年～昭和28.9.30	昭28.10.1（町村合併促進法施行時）の名称	昭28.10.2～平18.3.31	現在の名称
藤崎村		藤崎町 (12.5.20)		藤崎町		藤崎町
十二里村			十二里村			
常盤村			常盤村			
富木館村			富木館村			

## 2 人口・面積の状況

### (1) 人口

#### 総人口の推移

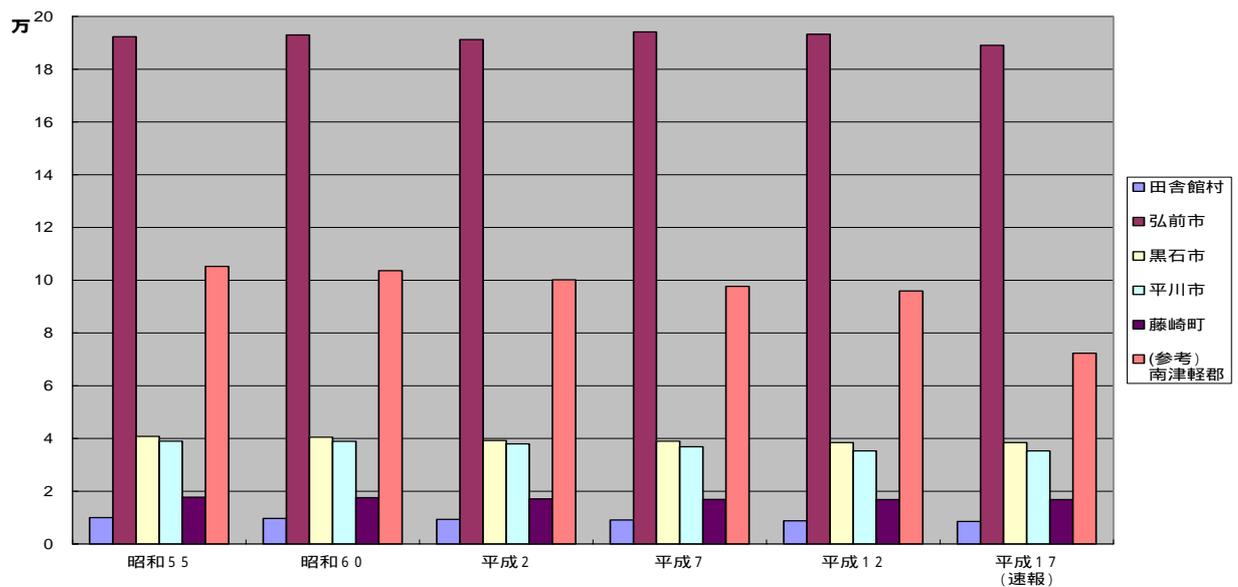
国勢調査結果を用いて昭和55年人口と平成17年人口を比較すると、田舎館村においては、15.0%の減少となっている。

同様の比較により、近隣市町村においては、弘前市で1.7%減、黒石市で5.6%減、平川市で9.3%減、藤崎町で5.2%減といずれも減少となっている。

また、田舎館村とこれら市町村の人口をそれぞれ合計すると、平成17年において、弘前市で2.3%、黒石市で7.5%減、平川市で10.5%減、藤崎町で8.8%減といずれも減少となる。

#### 人口の推移

(人)



## 将来人口の推計

将来人口については、平成17年から平成42年までの推計によると、田舎館村においては、19.7%減少することが予想され、昭和55年から比較すると約7割の人口となる見込みである。

同様の推計により、近隣市町村においては、弘前市で13.4%減、黒石市で9.9%減、平川市で18.9%減、藤崎町で16.4%減といずれも減少することが予想される。

また、田舎館村とこれら市町村の推計人口をそれぞれ合計すると、平成42年において、弘前市で13.7%減、黒石市で11.6%減、平川市で19.0%減、藤崎町で17.5%減となることが予想される。

### 田舎館村と近隣市町村の人口の推移

(これまでの人口の推移)

(単位:人,%)

	昭和55	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17 (速報)	増減率 (昭55~平17)
田舎館村	10,053	9,722	9,370	9,151	8,835	8,541	15.0
弘前市	192,291	192,989	191,217	194,197	193,217	189,050	1.7
	202,344	202,711	200,587	203,348	202,052	197,591	2.3
黒石市	40,755	40,501	39,213	39,004	38,449	38,455	5.6
	50,808	50,223	48,583	48,155	47,284	46,996	7.5
平川市	38,979	38,932	37,948	36,876	35,338	35,338	9.3
	49,032	48,654	47,318	46,027	44,173	43,879	10.5
藤崎町	17,787	17,620	17,139	16,940	16,858	16,858	5.2
	27,840	27,342	26,509	26,091	25,693	25,399	8.8
(参考) 南津軽郡	105,305	103,589	100,182	97,707	95,901	72,292	31.3

\* 南津軽郡H17には浪岡町は入っていない。

資料: 国勢調査(総務省)

\* 南津軽郡増減率はS55~H12の期間の数値

\* 「弘前市」に旧岩木町と旧相馬村、「藤崎町」に旧常盤村を含む。「平川市」は旧平賀町、旧尾上村、旧碓ヶ関村の合計

\* 弘前市、黒石市、平川市、藤崎町の下段数値は田舎館村との合計値

(将来人口の推計)

(単位:人,%)

	平成17 (推計値)	平成22	平成27	平成32	平成37	平成42	増減率 (平17~平42)
田舎館村	8,546	8,251	7,934	7,599	7,235	6,865	19.7
弘前市	191,670	188,865	184,853	179,477	173,047	165,893	13.4
	200,216	197,116	192,787	187,076	180,282	172,758	13.7
黒石市	38,994	38,722	38,246	37,445	36,398	35,146	9.9
	47,540	46,973	46,180	45,044	43,633	42,011	11.6
平川市	35,816	34,849	33,535	32,106	30,591	29,057	18.9
	44,362	43,100	41,469	39,705	37,826	35,922	19.0
藤崎町	16,644	16,257	15,732	16,149	14,534	13,917	16.4
	25,190	24,508	23,666	23,748	21,769	20,782	17.5
(参考) 南津軽郡	93,831	91,166	87,865	84,216	80,298	76,323	18.7

\* データの統一性を図るため、平成17は推計値を使用

資料: 将来人口推計(厚生労働省)

\* 「弘前市」に旧岩木町と旧相馬村、「藤崎町」に旧常盤村を含む。「平川市」は旧平賀町、旧尾上町、旧碓ヶ関村の合計

\* 弘前市、黒石市、平川市、藤崎町の下段数値は田舎館村との合計値

## 世代別人口の推移

昭和55年から平成12年までの推移をみると、田舎館村及び近隣市町村ともに、14歳以下の人口が大幅に減少する一方、65歳以上の高齢者が急増するいわゆる少子高齢化現象が顕著に見られる。

特に生産年齢人口（15歳以上64歳以下）は、田舎館村においては17.8%減、近隣市町村においては、弘前市で3.5%減、黒石市で8.0%減、平川市で11.4%減、藤崎町で13.0%減といずれも減少している。

また、田舎館村とこれら市町村の生産年齢人口をそれぞれ合計すると、平成12年において、弘前市で4.2%、黒石市で10.0%減、平川市で12.7%減、藤崎町で14.7%減となる。

## 世代別人口の推移

(単位:人,%)

		昭和55	昭和60	平成2	平成7	平成12	増減数 (昭55 平12)	増減率 (昭55 平12)
田舎館村	0～14歳	2,179	2,011	1,744	1,465	1,247	932	42.8
	15～64歳	6,750	6,471	6,163	5,931	5,548	1,202	17.8
	65歳以上	1,124	1,240	1,458	1,755	2,040	916	81.5
弘前市	0～14歳	42,155	39,630	34,703	31,465	28,251	13,904	33.0
		44,334	41,641	36,447	32,930	29,498	14,836	33.5
	15～64歳	131,583	132,014	130,750	130,944	126,925	4,658	3.5
	138,333	138,485	136,913	136,875	132,473	5,860	4.2	
	65歳以上	18,553	21,341	25,591	31,451	37,954	19,401	104.6
		19,677	22,581	27,049	33,206	39,994	20,317	103.3
黒石市	0～14歳	9,561	8,961	7,712	6,786	6,235	3,326	34.8
		11,740	10,972	9,456	8,251	7,482	4,258	36.3
	15～64歳	27,093	26,892	25,981	25,472	24,921	2,172	8.0
	33,843	33,363	32,144	31,403	30,469	3,374	10.0	
	65歳以上	4,101	4,648	5,520	6,746	7,903	3,802	92.7
		5,225	5,888	6,978	8,501	9,943	4,718	90.3
平川市	0～14歳	8,631	8,193	7,098	5,963	5,207	3,424	39.7
		10,810	10,204	8,842	7,428	6,454	4,356	40.3
	15～64歳	26,019	25,794	25,131	23,984	23,060	2,959	11.4
	32,769	32,265	31,294	29,915	28,608	4,161	12.7	
	65歳以上	4,329	4,945	5,719	6,929	8,187	3,858	89.1
		5,453	6,185	7,177	8,684	10,227	4,774	87.5
藤崎町	0～14歳	3,799	3,568	3,151	2,812	2,509	1,290	34.0
		5,978	5,579	4,895	4,277	3,756	2,222	37.2
	15～64歳	12,069	11,793	11,322	10,892	10,496	1,573	13.0
	18,819	18,264	17,485	16,823	16,044	2,775	14.7	
	65歳以上	1,919	2,259	2,654	3,236	3,853	1,934	100.8
		3,043	3,499	4,112	4,991	5,893	2,850	93.7
(参考) 南津軽郡	0～14歳	22,962	21,349	18,425	15,753	13,683	9,279	40.4
	15～64歳	70,645	68,864	66,297	63,250	60,260	10,385	14.7
	65歳以上	11,698	13,376	15,443	18,704	21,926	10,228	87.4

\* 弘前市、黒石市、平川市、藤崎町の下段数値は田舎館村との合計値

資料: 国勢調査(H12)

\* 「弘前市」に旧岩木町と旧相馬村、「藤崎町」に旧常盤村を含む。「平川市」は旧平賀町、旧尾上町、旧碓ヶ関村の

## (2) 世帯数

昭和55年から平成12年までの推移をみると、田舎館村及び近隣市町村ともに、世帯の小規模化が進み世帯数が増加傾向にあることが窺える。

田舎館村においては、2.3%増、近隣市町村においては、弘前市で20.2%増、黒石市で13.1%増、平川市で7.3%増、藤崎町で11.0%増といずれも増加している。

また、田舎館村とこれら市町村の世帯数をそれぞれ合計すると、平成12年において、弘前市で19.5%増、黒石市で11.1%増、平川市で6.3%増、藤崎町で7.9%増となる。

### 世帯数の推移

(単位:世帯,%)

	昭和55	昭和60	平成2	平成7	平成12	増減率 (S55~)
田舎館村	2,290	2,286	2,287	2,313	2,343	2.3
弘前市	56,799	58,921	61,807	66,003	68,296	20.2
	59,089	61,207	64,094	68,316	70,639	19.5
黒石市	10,291	10,673	10,775	11,074	11,637	13.1
	12,581	12,959	13,062	13,387	13,980	11.1
平川市	9,158	9,449	9,556	9,533	9,826	7.3
	11,448	11,735	11,843	11,846	12,169	6.3
藤崎町	4,168	4,228	4,316	4,458	4,626	11.0
	6,458	6,514	6,603	6,771	6,969	7.9
(参考)南津軽郡	25,311	25,756	25,798	26,060	26,772	5.8

\* 弘前市、黒石市、平川市、藤崎町の下段数値は、田舎館村との合計値

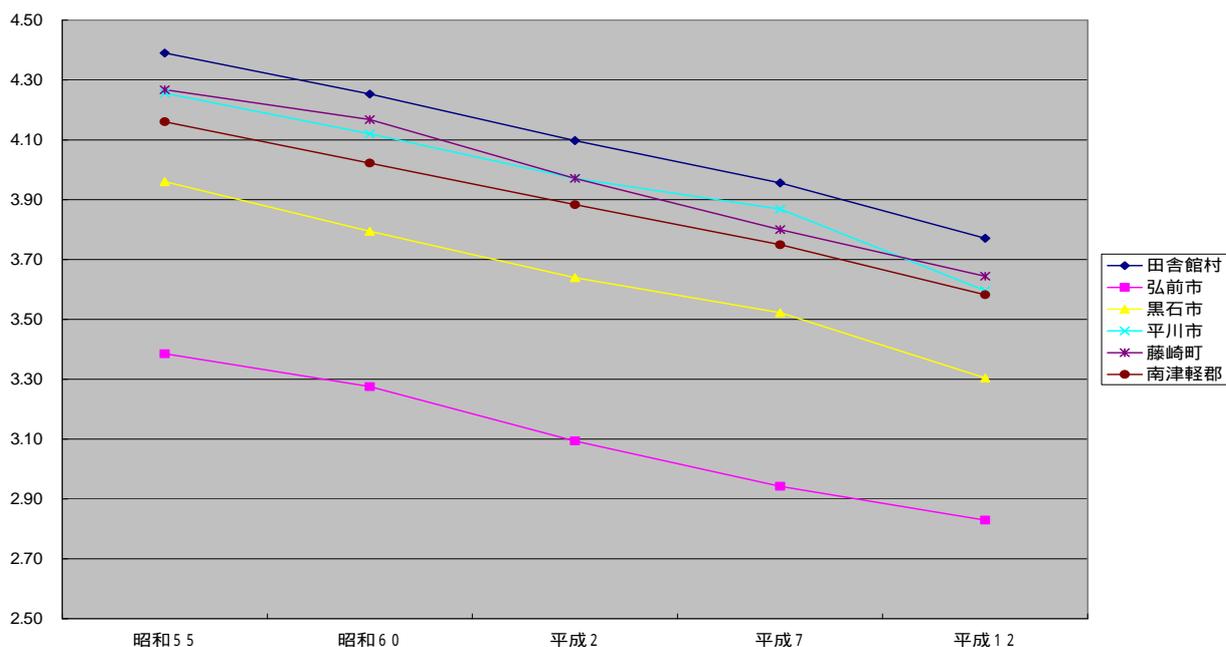
資料:国政調査(平成12年)

\* 「弘前市」に旧岩木町と旧相馬村、「藤崎町」に旧常盤村を含む。

「平川市」は旧平賀町、旧尾上町、旧碓ヶ関村の合計値。

### 一世帯当たりの人数

(人口/世帯数)



### (3) 昼夜間人口

昼夜間人口比は、田舎館村においては 82.9%で、夜間人口（常住人口）より昼間人口が少なくなっている。

近隣市町村においては、弘前市が 106.0%と昼間人口が多くなっている以外は、いずれも夜間人口が多く、弘前市への通勤・通学等による流出超過と考えられる。

昼夜間人口及び昼夜間人口比

	夜間人口	昼間人口	昼夜間人口比
田舎館村	8,835	7,327	82.9
弘前市	193,130	204,721	106.0
	201,965	212,048	105.0
黒石市	39,059	37,739	96.6
	47,894	45,066	94.1
平川市	36,454	31,959	87.7
	45,289	39,286	86.7
藤崎町	16,858	14,465	85.8
	25,693	21,792	84.8
(参考)南津軽郡計	95,869	83,242	86.8

\* 弘前市、黒石市、平川市、藤崎町の下段数値は、田舎館村との合計値 資料：国政調査(平成12年)

\* 「弘前市」に旧岩木町と旧相馬村、「藤崎町」に旧常盤村を含む。

「平川市」は旧平賀町、旧尾上町、旧碓ヶ関村の合計値。

### (4) 面積・人口密度

面積及び人口密度の状況

	人口(人)	総面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
田舎館村	8,835	22.31	396.0
弘前市	193,217	523.60	369.0
	202,052	545.91	370.1
黒石市	38,449	216.96	177.2
	47,284	239.27	197.6
平川市	35,338	345.81	102.2
	44,173	368.12	120.0
藤崎町	16,858	37.20	453.2
	25,693	59.51	431.7
(参考)南津軽郡計	95,901	700.85	136.8

\* 弘前市、黒石市、平川市、藤崎町の下段数値は、田舎館村との合計値 資料：国勢調査(平成12年)

\* 「弘前市」に旧岩木町と旧相馬村、「藤崎町」に旧常盤村を含む。

「平川市」は旧平賀町、旧尾上町、旧碓ヶ関村の合計値。

### 3 日常生活圏の状況

#### (1) 交通

田舎館村と近隣市町村の交通事情は、道路網の発達により、主要拠点間の自動車による所要時間は約10～25分と短く、鉄道及びバスの公共交通機関の利便性も高い。

また、田舎館村内に位置するJR川部駅は、奥羽本線と五能線の乗換駅として重要な交通拠点となっている。

#### \* 田舎館村からの交通概況

	弘前市	黒石市	平川市	藤崎町
主要幹線道路	県道弘前田舎館黒石線他	県道弘前田舎館黒石線	村道他	県道黒石藤崎線他
車による所要時間	25分	10分	20分	20分
公共交通機関	JR奥羽本線 ・川部駅～弘前駅 27往復(約10分)  弘南鉄道弘南線 ・田舎館駅～弘前駅 28往復(約24分)  弘南バス ・弘前～黒石線 12往復(約30分)  ・弘前～大川原線 3往復(約30分)	弘南鉄道弘南線 ・田舎館駅～黒石駅 28往復(約4分)  弘南バス ・弘前～黒石線 12往復(約15分)  ・弘前～大川原線 3往復(約15分)  ・黒石～川部線 5往復(約20分)	弘南鉄道弘南線 ・田舎館駅～平賀駅 28往復(約10分)	JR奥羽本線 ・川部駅～北常盤駅 17往復(約5分)  JR五能線 ・川部駅～藤崎駅 9往復(約5分)

(2) 常住者の通勤・通学先市町村

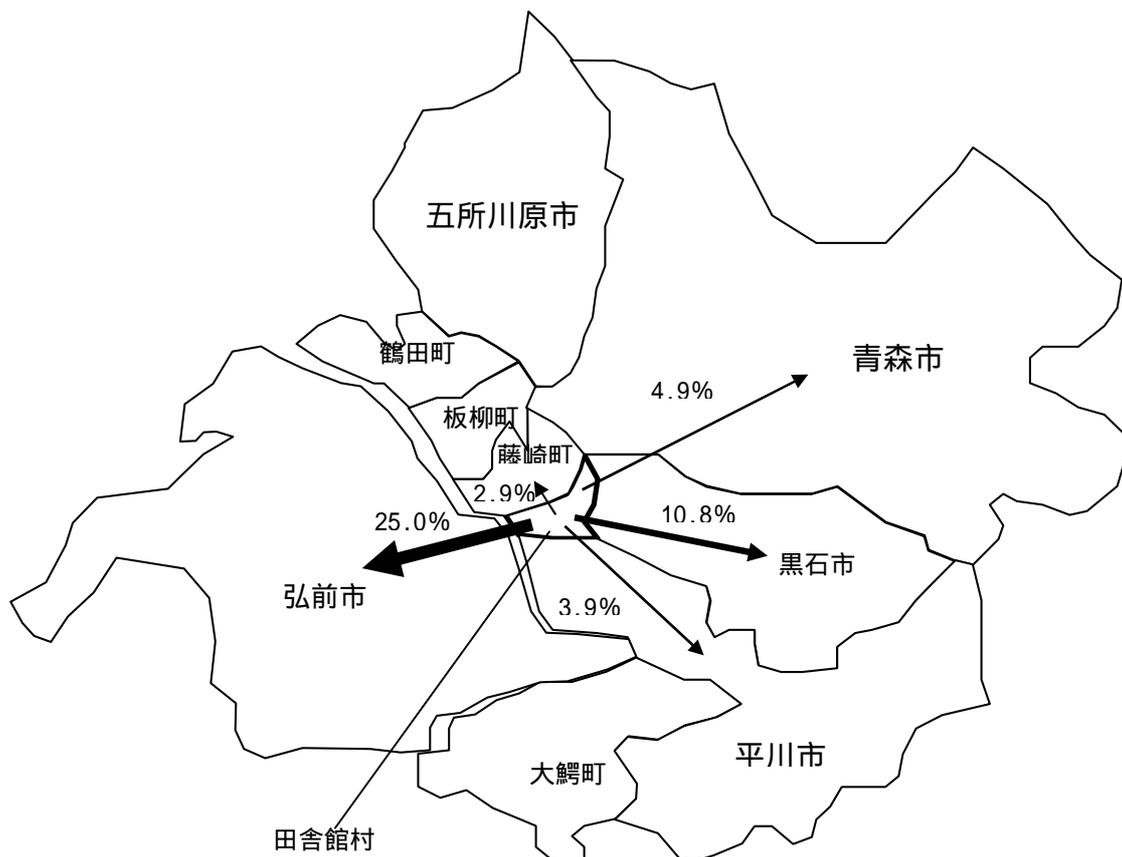
通勤

田舎館村に常住する就業者のうち、50.2%が村外で従業しており、この構成比は、弘前市25.0%、黒石市10.8%、平川市3.95%、藤崎町2.9%等となっている。

	総数	構成比	(参考) 男	(参考) 女
田舎館村に常住する就業者	4,718	100.0%	2,526	2,192
自市町村で従業	2,348	49.8%	1,186	1,162
他市町村で従業	2,370	50.2%	1,340	1,030
弘前市	1,180	25.0%	678	502
(旧弘前市)	1,161	24.6%	668	493
(旧岩木町)	19	0.4%	10	9
黒石市	508	10.8%	233	275
青森市	229	4.9%	171	58
(旧青森市)	145	3.1%	116	29
(旧浪岡町)	84	1.8%	55	29
平川市	182	3.9%	98	84
(旧尾上町)	99	2.1%	45	54
(旧平賀町)	83	1.8%	53	30
藤崎町	135	2.9%	59	76
(旧藤崎町)	84	1.8%	39	45
(旧常盤村)	51	1.1%	20	31
大鰐町	25	0.5%	17	8
板柳町	23	0.5%	13	10
五所川原市	22	0.5%	17	5

(資料) 国勢調査(平成12年)

従業・通学先の市町村への就業者・通学者数の計が10人以上対象



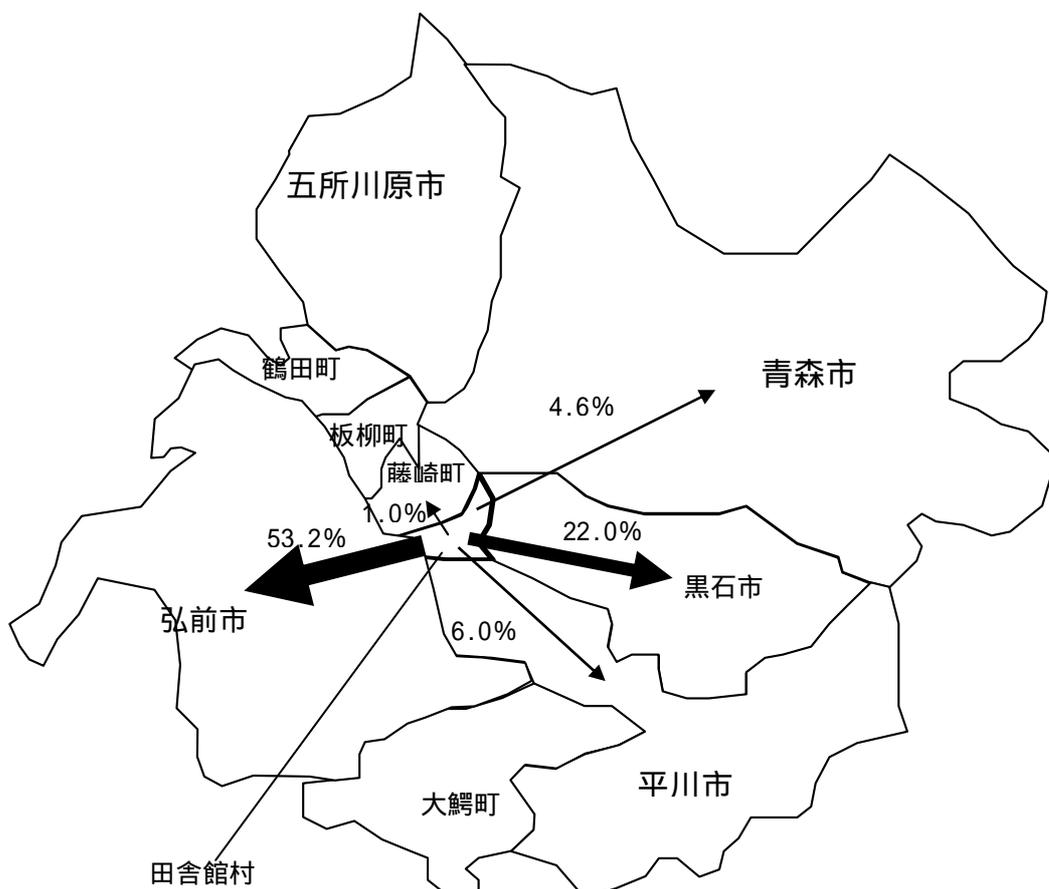
## 通学

田舎館村に常住する15歳以上の通学者のうち、87.9%が村外で通学しており、この構成比は、弘前市53.2%、黒石市22.0%、平川市6.0%、藤崎町1.0%等となっている。

	15歳以上通学者		(参考)15歳未満通学者を含む通学者	
	総数	構成比	総数	構成比
田舎館村に常住する通学者	496	100.0%	1,282	100.0%
自市町村で通学	60	12.1%	835	65.1%
他市町村で通学	436	87.9%	447	34.9%
弘前市	264	53.2%	269	21.0%
(旧弘前市)	264	53.2%	269	21.0%
(旧岩木町)	-	-	-	-
黒石市	109	22.0%	111	8.7%
平川市	30	6.0%	32	2.5%
(旧尾上町)	16	3.2%	18	1.4%
(旧平賀町)	14	2.8%	14	1.1%
青森市	23	4.6%	23	1.8%
(旧青森市)	18	3.6%	18	1.4%
(旧浪岡町)	5	1.0%	5	0.4%
藤崎町	5	1.0%	7	0.5%
(旧藤崎町)	5	1.0%	7	0.5%
(旧常盤村)	-	-	-	-
五所川原市	3	0.6%	3	0.2%

(資料)国勢調査(平成12年)

従業・通学先の市町村への就業者・通学者数の計が10人以上対象



(3) 従業者・通勤者の常住市町村

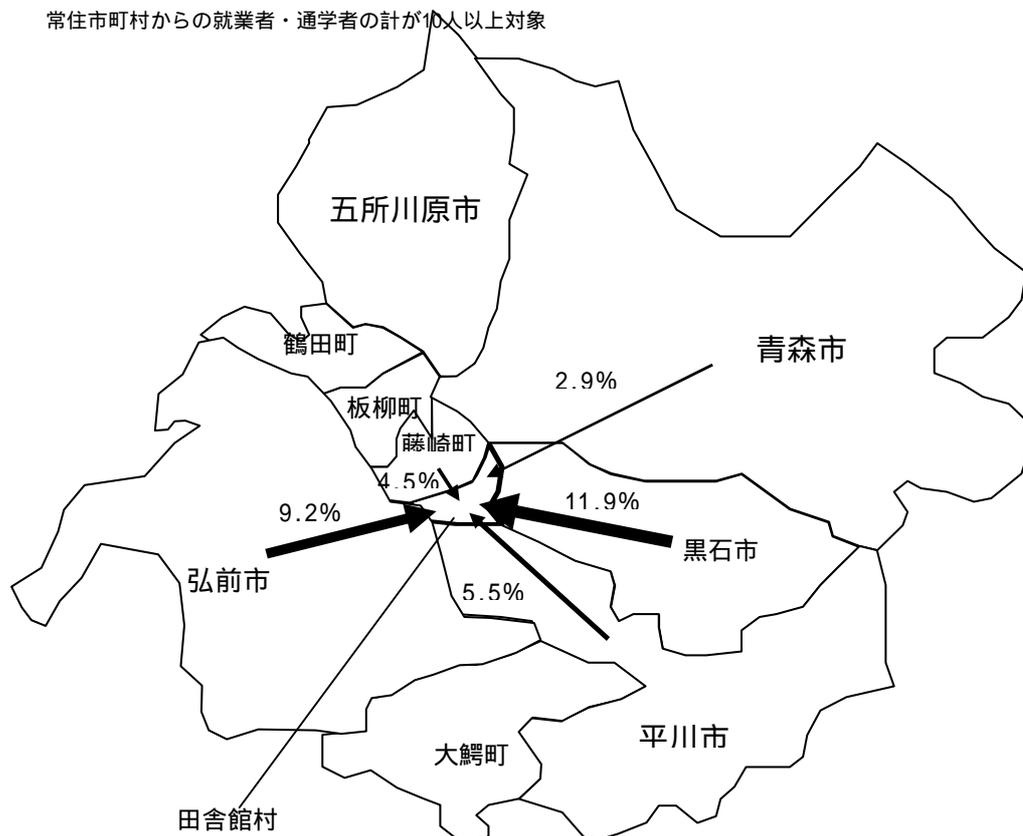
通勤

田舎館村で従業する者のうち、36.5%が村外からの通勤者となっており、この構成比は、黒石市11.9%、弘前市9.2%、平川市5.5%、藤崎町4.5%等となっている。

	総数	構成比	(参考)男	(参考)女
田舎館村で従業する者	3,697	100.0%	2,012	1,685
自市町村に常住	2,348	63.5%	1,186	1,162
他市町村に常住	1,349	36.5%	826	523
黒石市	441	11.9%	267	174
弘前市	340	9.2%	225	115
(旧弘前市)	326	8.8%	212	114
(旧岩木町)	14	0.4%	13	1
平川市	203	5.5%	121	82
(旧尾上町)	115	3.1%	59	56
(旧平賀町)	88	2.4%	62	26
藤崎町	168	4.5%	75	93
(旧藤崎町)	118	3.2%	55	63
(旧常盤村)	50	1.4%	20	30
青森市	107	2.9%	73	34
(旧青森市)	17	0.5%	15	2
(旧浪岡町)	90	2.4%	58	32
板柳町	33	0.9%	19	14
大鰐町	18	0.5%	15	3
五所川原市	14	0.4%	9	5
その他の市町村	22	0.6%	19	3
他県	3	0.1%	3	-

(資料) 国勢調査(平成12年)

常住市町村からの就業者・通学者の計が10人以上対象

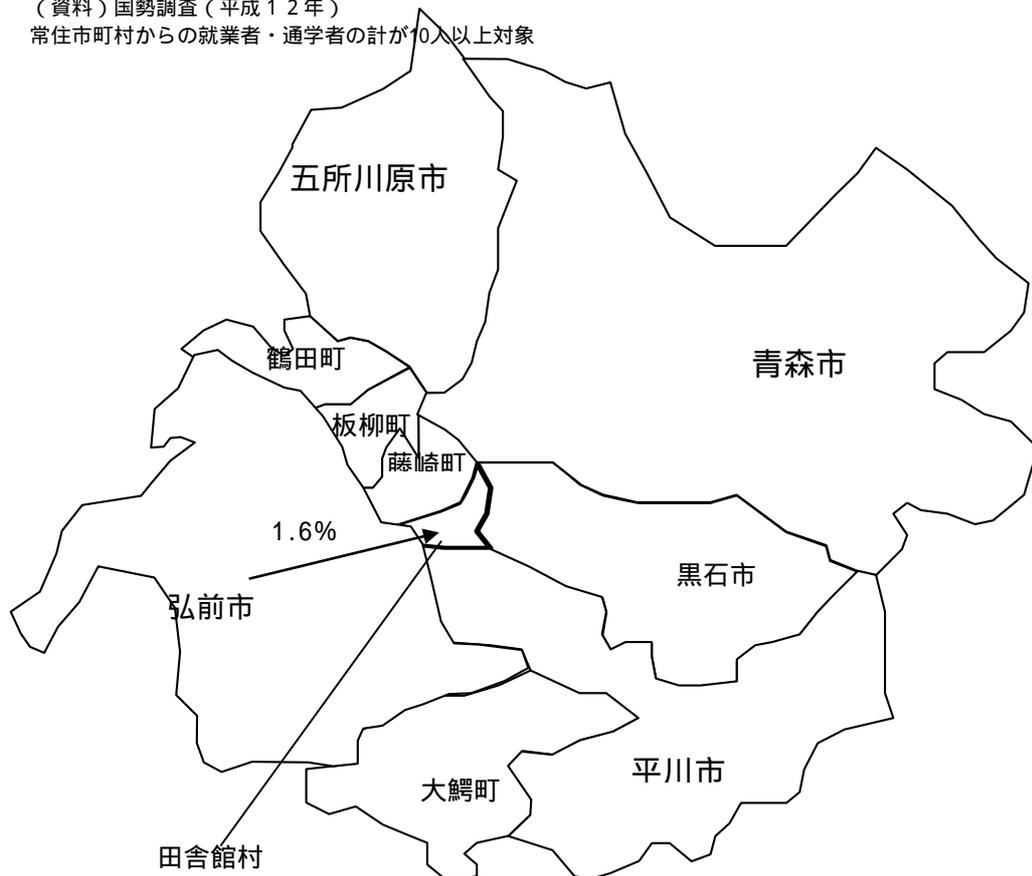


## 通学

田舎館村で通学する15歳以上の者のうち、1.6%が村外からの通学者となっている。

	15歳以上通学者		(参考)15歳未満通学者を含む通学者	
	総数	構成比	総数	構成比
田舎館村で通学する者	61	100.0%	840	100.0%
自市町村に常住	60	98.4%	835	99.4%
他市町村に常住	1	1.6%	5	0.6%
黒石市	-	-	-	-
弘前市	1	1.6%	2	0.2%
(旧弘前市)	1	1.6%	2	0.2%
(旧岩木町)	-	-	-	-
平川市	0	0.0%	0	0.0%
(旧尾上町)	-	-	-	-
(旧平賀町)	-	-	-	-
藤崎町	0	0.0%	3	0.4%
(旧藤崎町)	-	-	1	0.1%
(旧常盤村)	-	-	2	0.2%
青森市	0	0.0%	0	0.0%
(旧青森市)	-	-	-	-
(旧浪岡町)	-	-	-	-
板柳町	-	-	-	-
大鰐町	-	-	-	-
五所川原市	-	-	-	-
その他の市町村	-	-	-	-
他県	-	-	-	-

(資料)国勢調査(平成12年)  
 常住市町村からの就業者・通学者の計が10人以上対象



#### (4) 購買動向

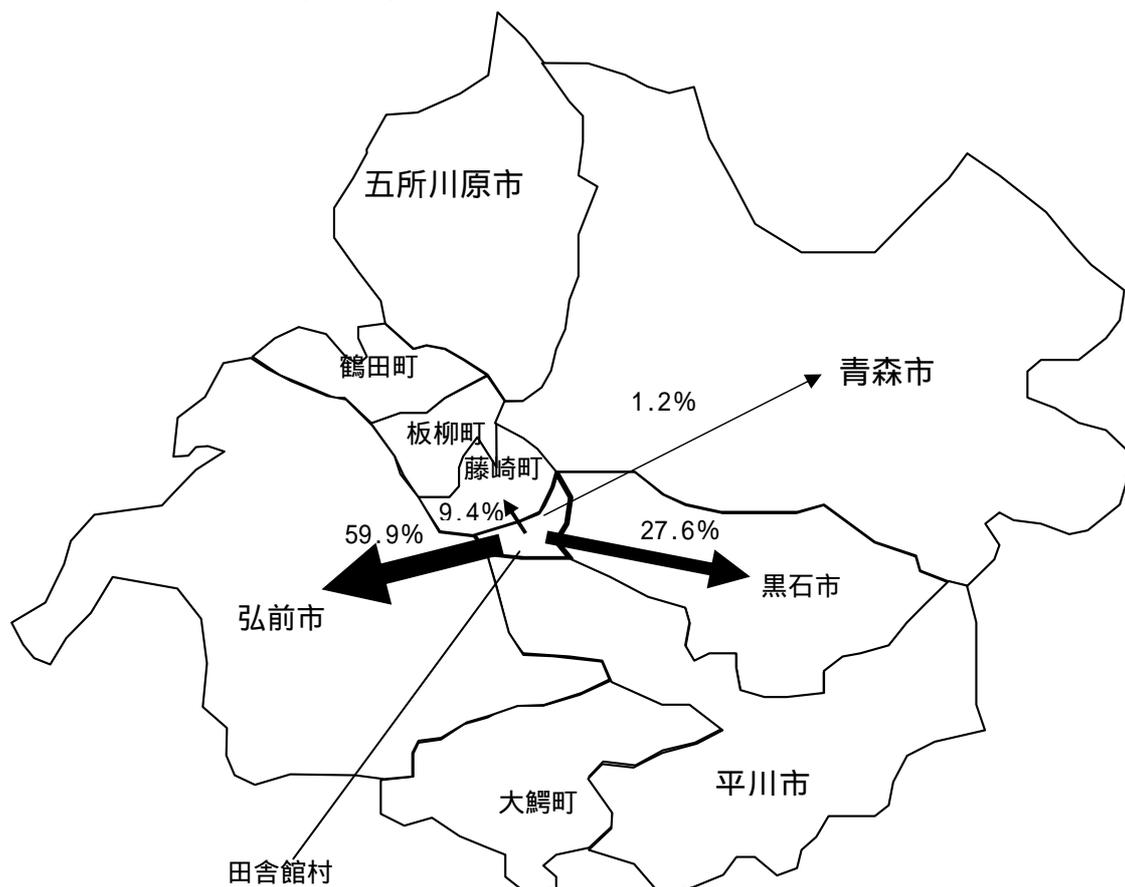
食料品などの買い物は、大部分(99.2%)が村外で行われており、この構成比は、弘前市59.9%、黒石市27.6%、藤崎町9.4%等となっている。平川市については、その他1.2%の中に含まれると思われる。

田舎館村常住者の購買先市町村の状況

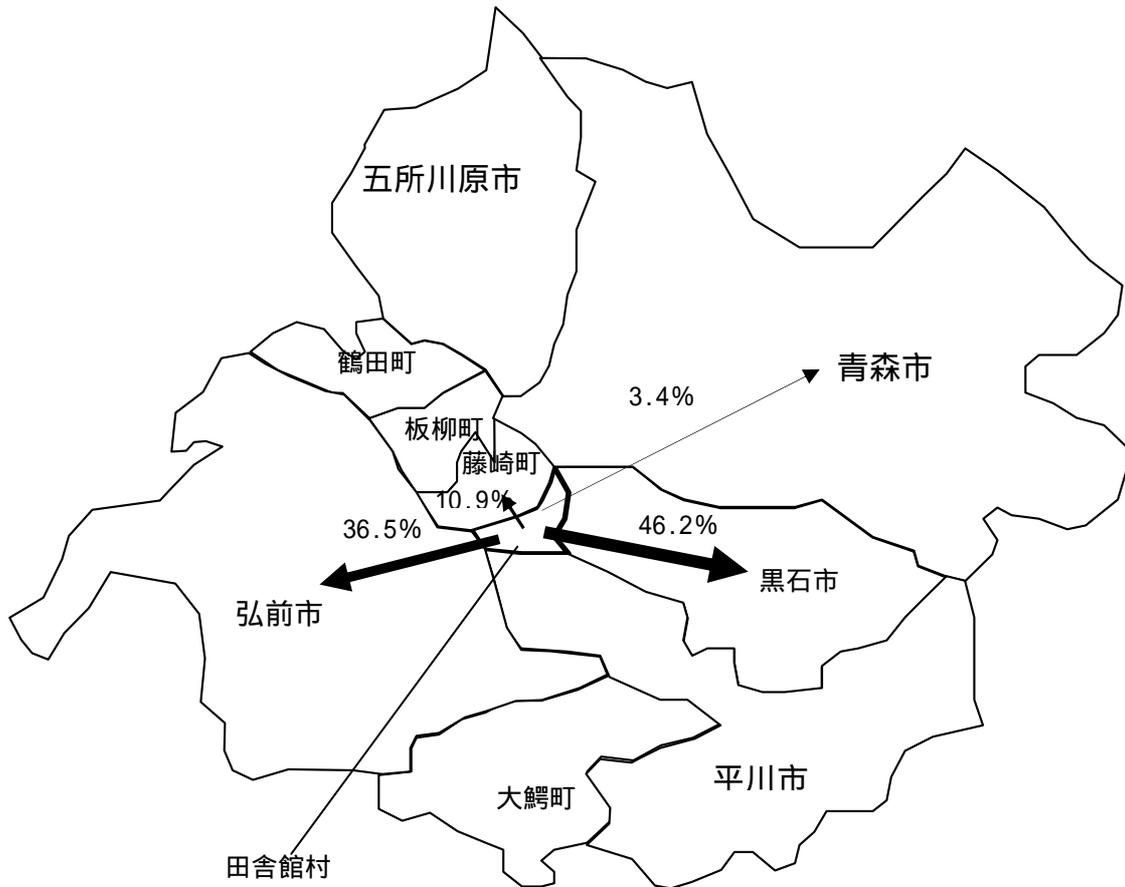
(単位 %)

	食料品	見回品・雑貨	衣料品	生活用品	家族連れ外食	合計
自市町村内	2.7	0.3	0.3	0.4	0.0	0.8
弘前市	36.5	58.0	65.4	65.3	89.6	59.9
黒石市	46.2	26.6	19.8	27.0	7.3	27.6
藤崎町	10.9	12.8	11.7	6.3	1.0	9.4
(旧藤崎町)	9.9	12.8	11.7	6.3	1.0	9.2
(旧常盤村)	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
青森市	3.4	0.7	0.3	0.8	2.1	1.1
(旧青森市)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0
(旧浪岡町)	3.4	0.7	0.3	0.8	0.0	1.1
その他	0.3	1.6	2.5	0.2	0.0	1.2

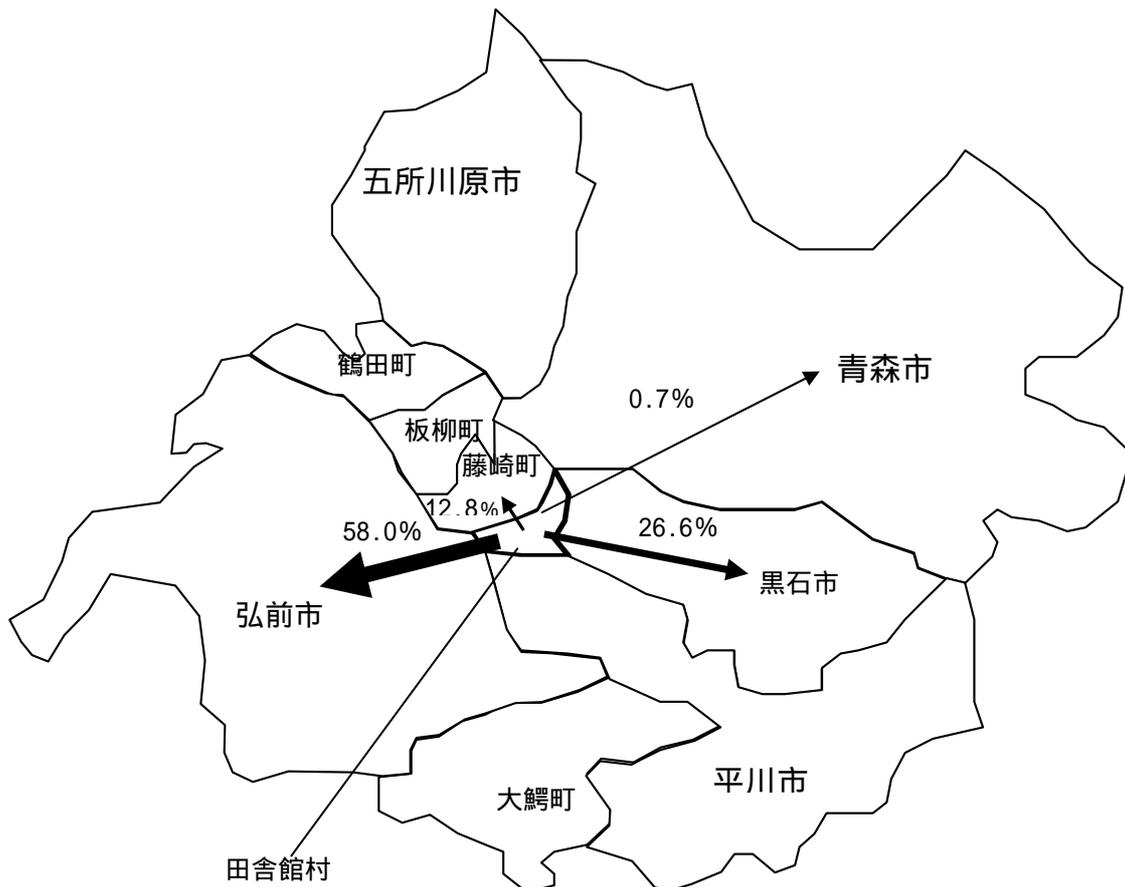
(資料) 青森県、青森県商工会議所連合会、青森県商工会連合会「消費購買動向による商圈調査報告書(平成15年度)」  
購買先市町村(全体)



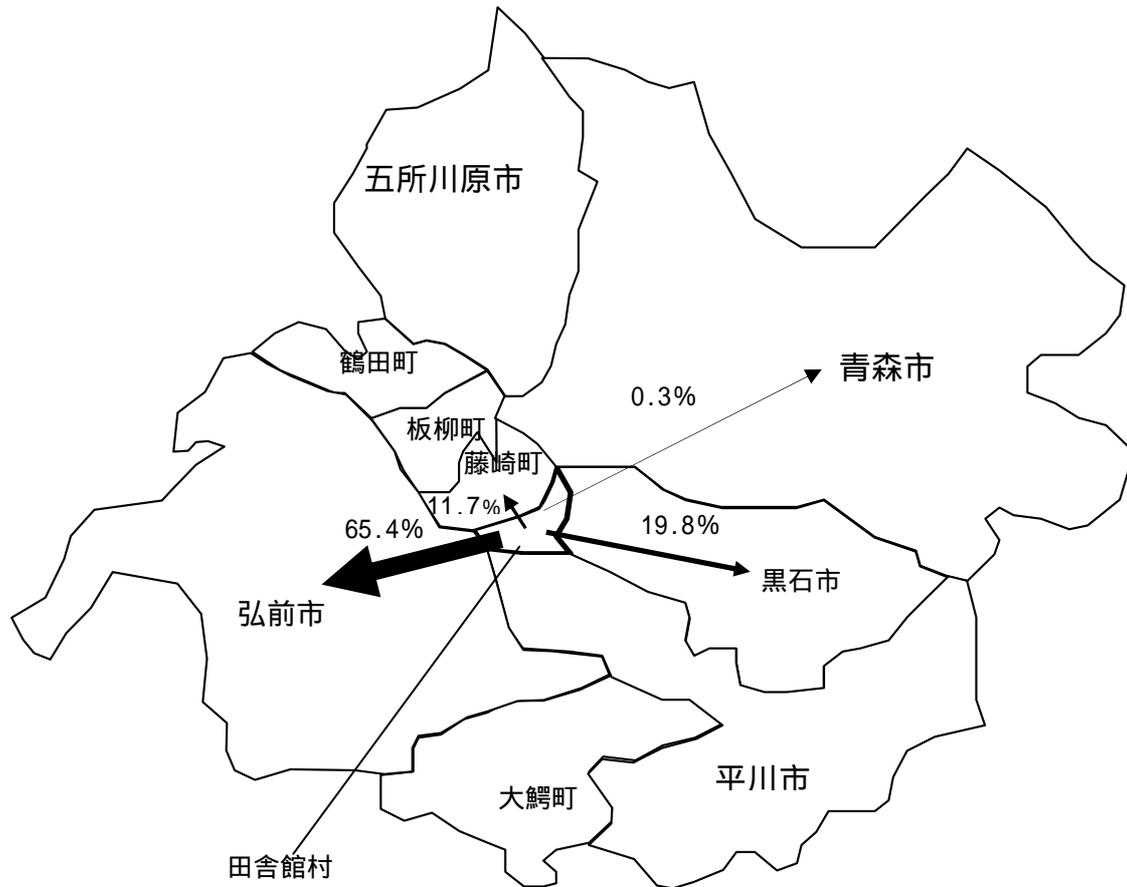
購買先市町村（食料品）



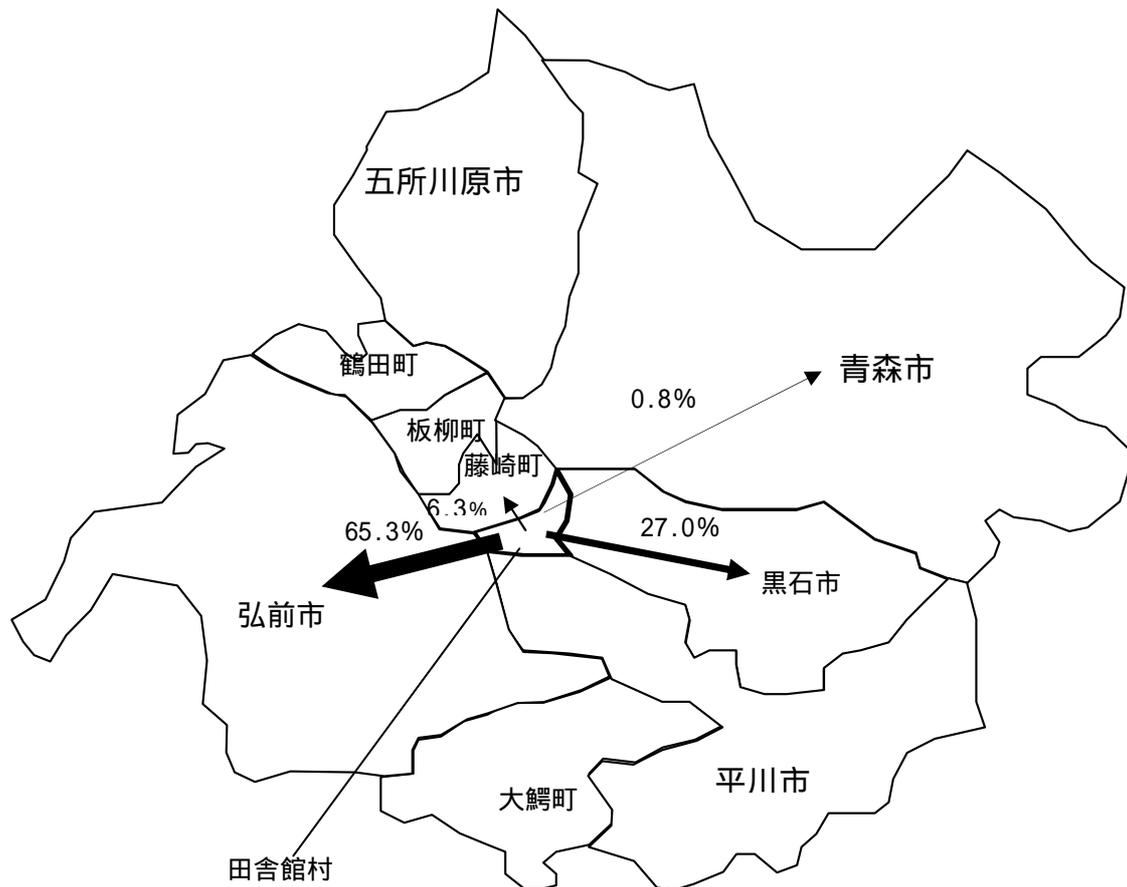
購買先市町村（身回品・雑貨）



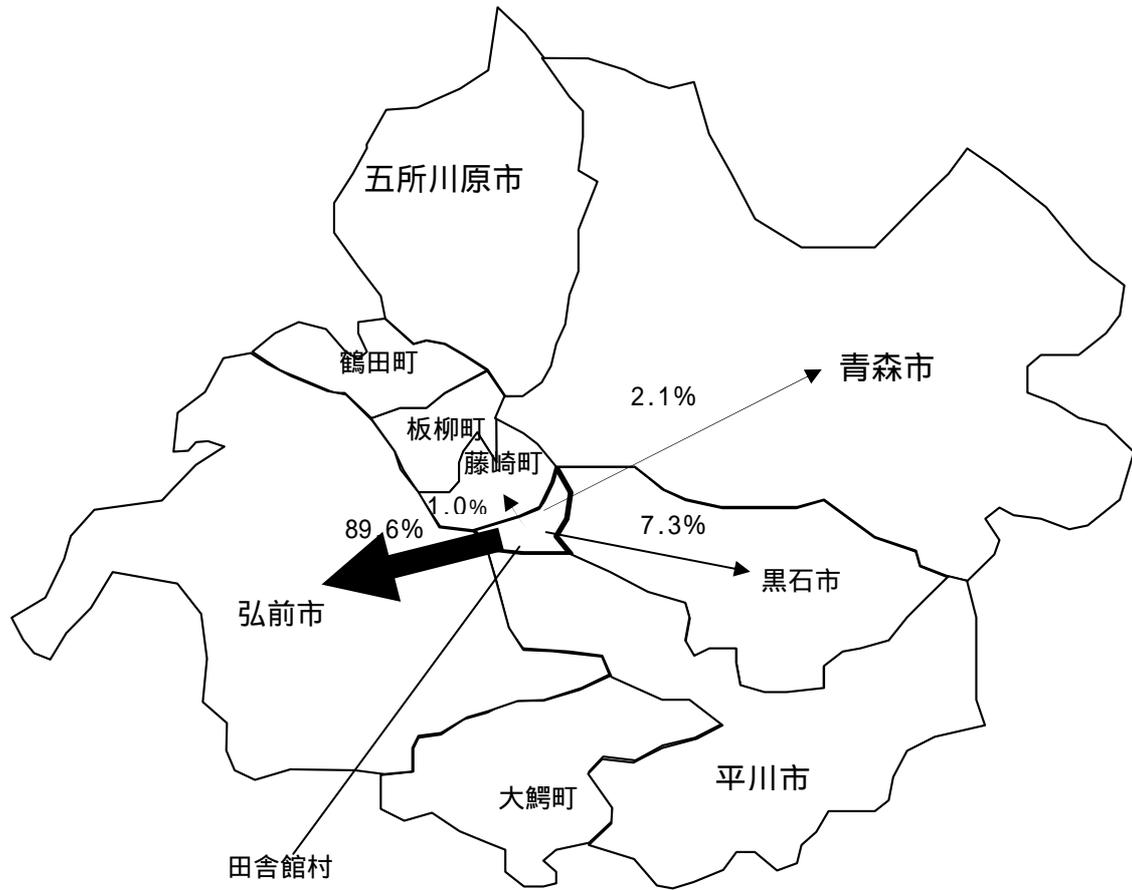
購買先市町村（衣料品）



購買先市町村（生活用品）



購買先市町村（家族連れ外食）



(5) 受診動向(病院)

通院、入院ともに100%村外に依存しており、この構成比は、通院については、弘前市45.4%、黒石市45.4%、藤崎町7.5%、平川市0.6%等となっている。入院については、弘前市43.2%、黒石市27.4%、藤崎町18.9%、平川市3.2%等となっている。

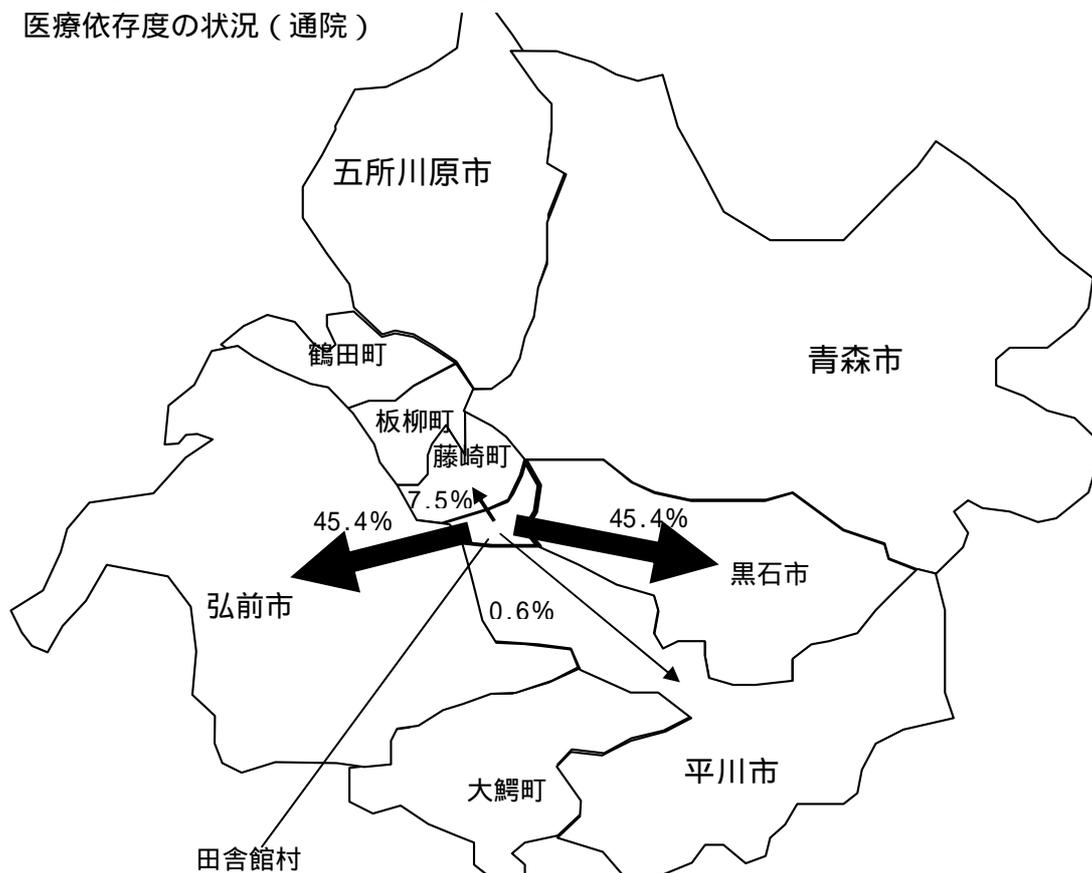
田舎館村常住者の受診先市町村の動向(通院、入院別)

(単位 %)

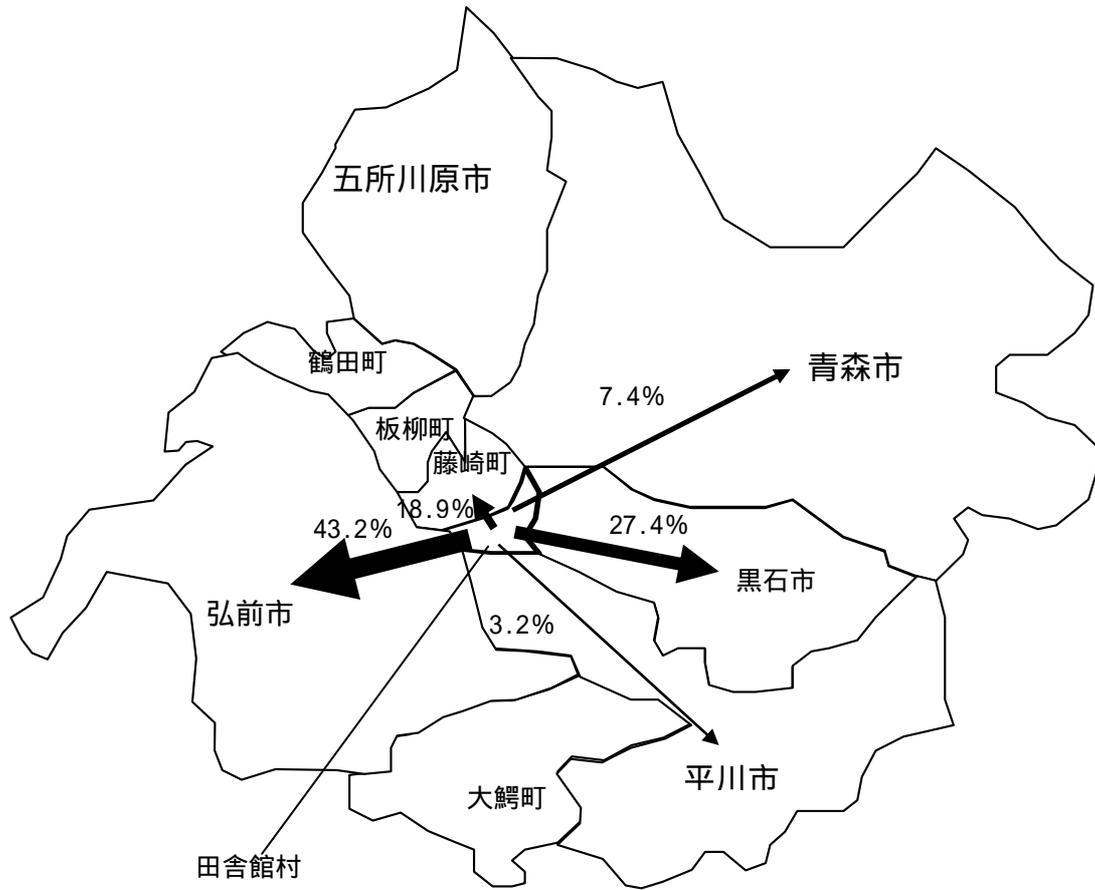
患者の住所	通院	入院
田舎館村	-	-
弘前市	45.4	43.2
黒石市	45.4	27.4
藤崎町	7.5	18.9
(旧藤崎町)	0.6	-
(旧常盤村)	6.9	18.9
青森市	0	7.4
(旧青森市)	-	2.1
(旧浪岡町)	-	5.3
平川市	0.6	3.2
(旧平賀町)	-	2.1
(旧碓ヶ関村)	0.6	1.1
大鰐町	1.1	-
合計	100.0	100.0

(資料) 県「青森県受療動向調査(平成13年)」

医療依存度の状況(通院)



医療依存度の状況（入院）



#### 4 産業構造(産業別人口)

田舎館村及び近隣市町村ともに、第3次産業従事者の割合が高いが、田舎館村においては、特に第2次産業従事者が、30.2%と各産業の中での割合が比較的高いものとなっている。

	就業人口	構成比	就業人口 (田舎館村を合計)	構成比
田舎館村	4,718	-	-	-
第1次産業従事者	1,131	24.0%	-	-
第2次産業従事者	1,423	30.2%	-	-
第3次産業従事者	2,164	45.9%	-	-
弘前市	95,364	-	100,082	-
第1次産業従事者	17,211	18.0%	18,342	18.3%
第2次産業従事者	19,137	20.1%	20,560	20.5%
第3次産業従事者	59,016	61.9%	61,180	61.1%
黒石市	20,258	-	24,976	-
第1次産業従事者	3,653	18.0%	4,784	19.2%
第2次産業従事者	5,955	29.4%	7,378	29.5%
第3次産業従事者	10,650	52.6%	12,814	51.3%
平川市	19,371	-	24,089	-
第1次産業従事者	5,202	26.9%	6,333	26.3%
第2次産業従事者	5,378	27.8%	6,801	28.2%
第3次産業従事者	8,791	45.4%	10,955	45.5%
藤崎町	8,850	-	13,568	-
第1次産業従事者	2,515	28.4%	3,646	26.9%
第2次産業従事者	2,144	24.2%	3,567	26.3%
第3次産業従事者	4,191	47.4%	6,355	46.8%
(参考)南津軽郡計	50,674	-	50,674	-
第1次産業従事者	13,217	26.1%	13,217	26.1%
第2次産業従事者	13,186	26.0%	13,186	26.0%
第3次産業従事者	24,271	47.9%	24,271	47.9%

\*「弘前市」に旧岩木町と旧相馬村、「藤崎町」に旧常盤村を含む。  
「平川市」は旧平賀町、旧尾上町、旧碓ヶ関村の合計値。

資料：国政調査(H12)

#### 5 広域行政の状況

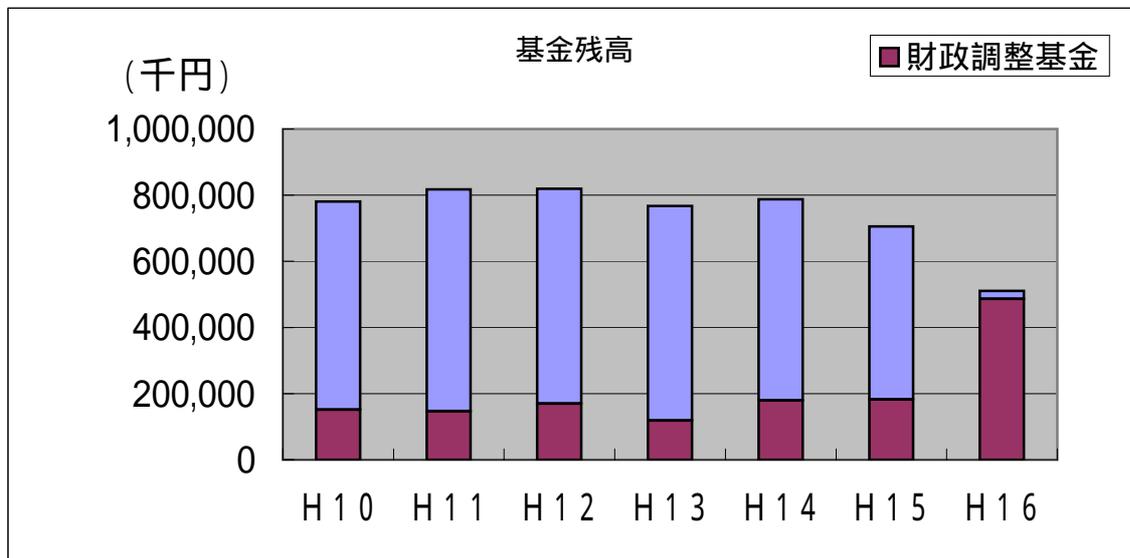
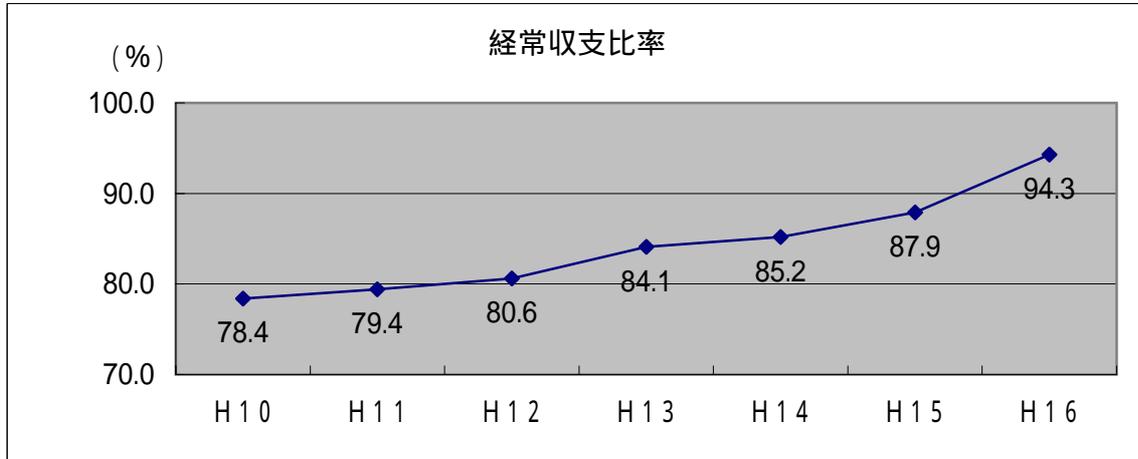
田舎館村では、黒石市のほか近隣の市町村との間で、次に掲げるような事務の共同処理を通じた広域行政を展開している。

共同処理事務	田舎館村	弘前市	黒石市	平川市	藤崎町	共同処理組織
消防				(碓ヶ関)		:黒石地区消防事務組合 :弘前地区消防事務組合
ごみ処理 し尿処理				(尾上) (尾上以外)	(常盤) (藤崎)	:黒石地区清掃施設組合 :弘前地区環境整備事務組合
上水道		(弘前)		(碓ヶ関以外) (碓ヶ関)		:津軽広域水道企業団 :久吉ダム水道企業団
児童福祉(知的 障害児施設)						:南黒地方福祉事務組合
介護保険認定						:津軽広域連合
視聴覚ライブラ リー設置運営						:青森県中弘南黒地方視聴覚 教育協議会
交通安全対策						:黒石地区交通安全対策会議 :弘前地区交通安全対策会議

一部事務組合のうち、全体的なものは除いて整理している。

## 財政状況(田舎館村)

### 1 財政指標



### 2 行財政改革の取組状況

#### 行政改革推進本部を立ち上げ

- 1 村立保育所2カ所を18年度に民営化し、3施設全部民間とする。
- 2 指定管理者制度移行への取り組みを推進する。
- 3 議員、農業委員、消防団員のほか、各種委員の定数削減を18年度から順次実施する。
- 4 退職職員があっても当面不補充とし、人員を抑制していく。
- 5 四役、議員、職員の期末手当を18年度から10%～50%削減
- 6 費用弁償、日当を18年度から廃止
- 7 賃金、委託料、補助金、報償費等を18年度から5%～50%削減、又は廃止